



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.19  
令和6年2月20日  
文責：校長 福島

## 言葉のキャッチボールしようぜ！



楽しくキャッチボールしています。容赦なく投げってくる子供たちのボールに翻弄されながらも、昼休みが来るのをわくわくして待っています。肩は大丈夫ですが足は筋肉痛です。一人あたり2分程度の時間ですが、みるみる自信をつけていきます。ニコッとする瞬間は最高です。

ある保護者様からとてもうれしく、共感するお手紙をいただきました。一部を紹介します。



先日は、キャッチボールの見学をさせていただきありがとうございました。キャッチボールを見ていると、ふと言葉のキャッチボールの大切さを考えさせられてしまいました。

自分自身、子供とどれくらいしっかりとキャッチボールができているだろうと考えたとき、私たち親子は常にどちらかの一方通行の会話になっていると感じました。私が話しかけるのはたいてい怒るときなので、子供は反抗してくるか無視してきます。逆に子供が話しかけてくる時は当たり前ですが聞いてほしいことがあるとき。どうしても煩わしいと感じることが少なくありません。なので、携帯を見ながらの返事だったりスルーしてしまったりと、キャッチボールがほぼできていないことが多いと感じました。自分の思いを押し付けてはいけないと思う反面、子供の将来を考えて最低限の礼儀は教育しておきたいという思いがいつも葛藤しています。よって毎日ガミガミと押し付け攻撃をしているのが現状です。

でも校長先生とのキャッチボールを見ていると、成功した子には「よくやった！」失敗した子には「いいよ！もう1回！」と常に相手が嫌にならないような声掛けをされていました。そして全く捕れない子が捕れたとき、校長先生はとても喜ばれていました。

わが子とのかかわり方の答えはまだわかりませんが、子供が伝えたいこと、話したいことがあった時は「相手の言葉をきちんと受け止めた上で、自らも発言しなければならない」ことを念頭に置き、これからわが子と接していきたいと思えます。

見学に行くまでは失礼ながら「たかがキャッチボール」と思っていたのですが、実際に見てみるとキャッチボールには人生においての根っこがあるように感じました。

子供にも私にも貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。